

コールマン製品保証書

お客様	ご芳名	様 TEL.
	ご住所	
取扱販売店	店名・住所・電話番号	
保証期間	お買い上げ日 年 月 日より 1年間	

本書は、本書記載内容にそって無償修理をお約束するものです。保証期間中に故障が発生した場合は、製品に本書を添え、お買い上げの販売店にご依頼ください。お買い上げ年月日、販売店等記入もれがありますと無効になります。必ずご確認いただき、記入のない場合は、お買い上げの販売店にお申し出ください。また、お買い上げいただいた時のレシート、領収書を下に添付して保管ください。ご転居、ご贈答等でお買い上げの販売店に修理依頼できない場合は、最寄りのコールマン製品取扱店にご依頼ください。本書は再発行いたしません。大切に保管してください。

〈無償修理規定〉

- 取扱説明書、本体注意ラベル等の注意書きにしたがった正常な使用状態で保証期間内に故障した場合には、お買い上げの販売店、または当社が無償修理いたします。
- 保証期間内でも、次の場合には有償修理となります。
 - 本書のご提示がない場合。
 - 本書に、お買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入がない場合、または字句を書き換えられた場合。
 - 使用上の誤り、または不当な修理や改造による故障、損傷。
 - お買い上げ後に、落とされた場合等による故障、損傷。
 - 火災、公害および地震、風水害、爆発その他天災地変等、外部に要因がある故障、損傷。
 - 指定外の燃料使用による故障、損傷。
 - ジェネレーター等の消耗品が損傷し取り替えを要する場合。
- 保証期間経過後の有償修理は、お客様のご希望により、お買い上げの販売店または当社にお問い合わせください。
- 本書は、日本国内においてのみ有効です。

コールマンジャパン株式会社

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町5-14 JBP箱崎ビル2F
商品のお問合わせについては、右記へご連絡ください。TEL. 0120-111-957



取扱説明書

THE POWERHOUSE™ TWO BURNER MODEL 413H



The Two Burner.

警告

1. この器具は屋外専用です。使用中は多量に酸素を消費します。屋内、車内、テントの中もしくは換気の悪い場所では使用しないでください。
2. コールマン純正ホワイトガソリンは発火点が低く大変危険です。火気からは1m以上離して使用し、取扱いは充分注意してください。
3. 可燃物、引火物の近くでは使用しないでください。
4. 燃料の給油及び点火作業の際にはまわりに火気のない、換気の良い場所で行ってください。室内、車内等換気の悪い場所、火の気のそば及びくわえタバコ等での作業は絶対にしないでください。
5. 使用中もしくは消火後の燃料タンクが熱せられている時は、絶対に燃料キャップを開けたり、給油作業をしないでください。

注意

1. 使用する前に必ず取扱説明書をよくお読みください。
2. この器具は屋外専用調理器具です。その他の目的に使用したり改造したりしないでください。
3. 必ずコールマン純正ホワイトガソリンを使用する。自動車用無鉛ガソリンその他の燃料は使用しない。ストーブはコールマン純正ホワイトガソリンによって、最高の燃焼効果が得られる。
4. 燃料は火気の近く、湿度が高い、高温な車内等温度が40度以上になる場所には保管、放置しないでください。
5. 燃料キャップを開けているとき、給油中もしくは近くに燃料、可燃物等がある時は、絶対に自動点火装置は使わないでください。
6. 使用中や使用直後は、バーナー、ごとくなどの部分は高温になっていますので手を触れないでください。やけど等の原因になります。
7. テント、スリーピングバッグ、衣類等の燃えやすい物からは、上部1.2m以上、左右50cm以上離してお使いください。
8. 子供、幼児の手の届かぬ所に置かないでください。
9. 専用の付属品以外の物の使用、特にグレートより大きな鉄板、鍋等を使用すると本体部分に変色したり、思わぬ事故になることがありますので使用しないでください。

純正燃料

アメリカコールマン本社の、分析表をもとに精製した、高純度ホワイトガソリン。



失敗しない燃料注入方法

新しいリットル缶からこぼさない注ぎ方は、注ぎ口を上にして缶の中に空気が入りやすくすると、簡単に入れられる。



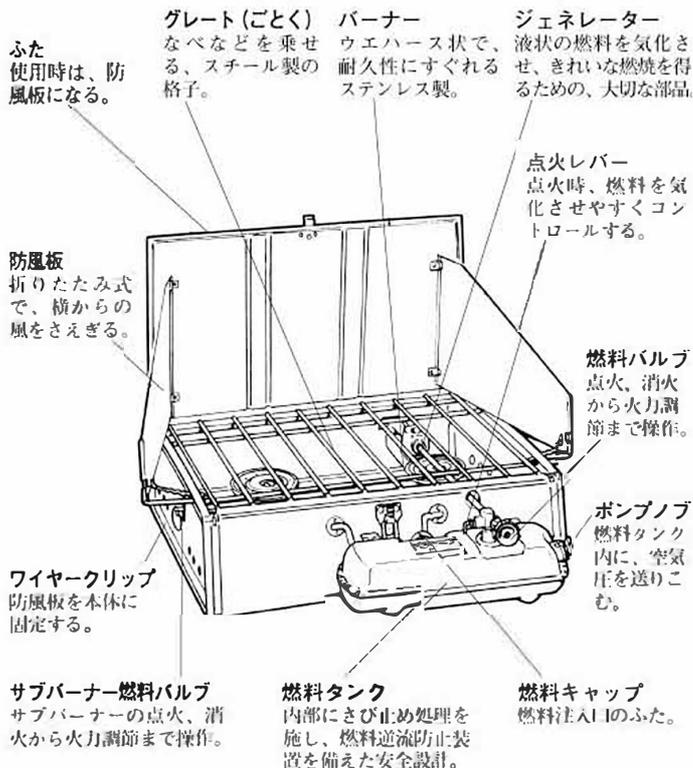
注ぎ口を上にして、この角度から入れるとこぼさない。



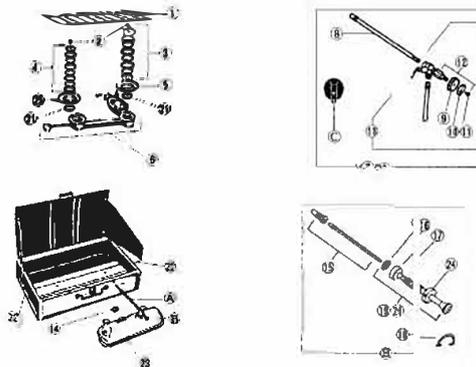
目次

警告・注意	2
純正燃料	3
失敗しない燃料注入方法	3
ストーブ各部の名称と役割	4
分解図とパーツリスト	5
ガソリンタイプ燃焼器具の基本的な仕組み	6
正確で力強いポンピングによる空気圧が最大のポイント	6
空気圧不足が燃焼不良の原因	6
高い空気圧が明るさの秘訣	6
1 点火の準備	7
2 燃料を入れる	8
燃料満タンの目安	8
3 ポンピング	9
ポンピング操作上の注意	9
4 燃料タンクのセット	10
チェックバルブ機能の点検	10
5 メインバーナーの点火	11
点火時の注意	11
6 サブバーナーの点火	12
7 消火	12
8 収納・保管	14
9 メンテナンス	14
ジェネレーター交換の手順	14
ポンプカップ交換の手順	15

キャンブストーブ各部の名称と役割



413Hツーパーナー 分解図とパーツリスト



パーツNO.	英語名	価格	パーツ名
1. 413B5531	Grate	3,000	プレート(ごとく)
2. 413B130	Screw	150	スクリュー(ネジ)
3. 425-3451	Master Burner Ring Set	1,500	マスターバーナーリングセット
4. 413C3451	Burner Ring Set	1,500	バーナーリングセット
5. 413C3021	Master Burner Bowl	750	マスターバーナーボウル
6. 413A5281	Manifold Ass'y	4,800	マニフォルド一式
7. 426-6601	Valve & Generator	5,400	バルブ&ジェネレーター
8. 426-5621	Generator	2,700	ジェネレーター
9. 407-6491	Valve Wheel	700	バルブホイール(黒)
10. 201-172	Direction Disc	250	ディレクションディスク
11. 220B175	Screw	50	スクリュー(ネジ)
12. 413A6531	Valve Stem Ass'y	1,680	バルブステム一式
13. 426-6561	Valve Ass'y	2,600	バルブ一式
14. 220C1401	Filler Cap	700	燃料キャップ
15. 200-6381	Check Valve & Air Stem	1,300	チェックバルブ&エアーステム
16. 242-1071	Push On Nut	140	プッシュオンナット
17. 216-1091	Pump Cup(Neoprene)	200	ポンプカップ(ゴム)
18. 530A5071	Pump Cap Clip	180	ポンプキャップクリップ
19. 242J5201	Pump Plunger Ass'y	2,100	ポンププランジャー一式(メタルキャップ)
20. 220A6201	Pump Plunger Ass'y	2,280	ポンププランジャー一式(プラスチックキャップ)
21. 413-390	Ceramic Paper	200	セラミックペーパー(1枚)
22. 413B4971	Wind Baffle Support	300	防風板クリップ(2個入)
23. 413-5601	Tank	3,800	タンク
24. 288-1851	PL Pump Cap	200	ポンプキャップ(プラスチック)
25. 413C3061	Burner Bowl	750	バーナーボウル

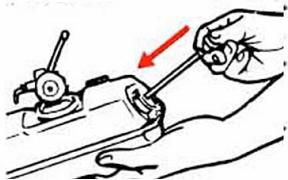
表示の価格は2000年1月1日現在のもので、価格、組み合わせは、予告なく変更することがあります。

ガソリンタイプ燃焼器具の基本的な仕組み

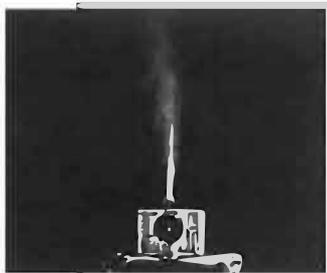
正確で力強いポンピングによる空気圧が最大のポイント

コールマンの、ガソリンを燃料とする燃焼器具は、すべての共通システムになっている。

①ポンピングで、燃料タンク内に空気圧を加える。



②燃料バルブの操作で、圧力のかかった燃料が空気と一緒に、噴霧状になってジェネレーター内に送られる。



空気圧不足が燃焼不良の原因

燃焼不良の原因のほとんどが、空気圧不足。必ず聞くなるまで強くポンピングし、連続使用する場合は、頻繁にポンピングする。

③バーナーやマンツルの燃える熱で、ジェネレーター内部を通る燃料が気化される。



④気化された燃料が、大気中の酸素と混じりあって燃えるので、ススの出ない地球環境にやさしい、クリーンな炎で燃焼する。

高い空気圧が強火力の秘訣

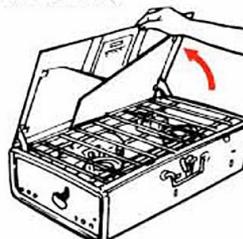
ジェネレーター内に送られる燃料が、噴霧状になることが気化させるポイントとなる。空気圧が高いほど勢いよく押し出され、噴霧状になりやすく気化しやすい。したがって、空気圧が高いほど点火操作も簡単に、効率よくきれいな燃焼が得られる。

修理

ストーブの修理は、燃料を抜いて、保証書と一緒に、お買い求めの販売店にご依頼ください。

1 点火の準備

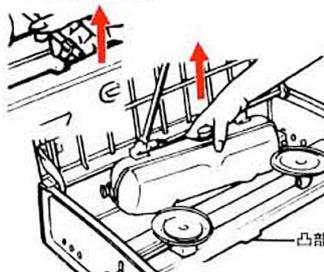
①ふたを開ける。



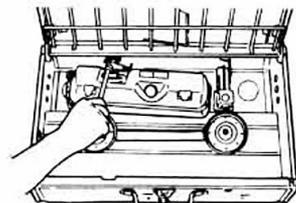
②グレートを持ち上げる。



③ジェネレーター先端を、本体凹部を通して外に出し、ジェネレーター先端を上にした角度で燃料タンクを取り出す。



④無理やり取り出すと、バルブホイールを破損することがあるので注意する。



⑤グレートをおろし、防風板を左側にひねる。



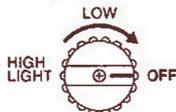
⑥ワイヤークリップを、本体の穴にセットする。



2 燃料を入れる

⚠ 必ず、アウトドア（屋外）の火気のない所で行ってください。

① 燃料バルブを右に止まるまでまわす。



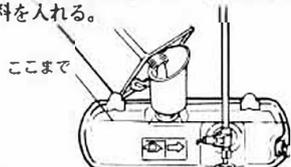
② ポンプノブを、右に止まるまでまわす。



③ 燃料キャップをはずす。



④ 燃料タンクを水平に置いて、注入口からあふれない位（8分目程度）に燃料を入れる。



⑤ 燃料キャップを、固めにしめる。

⚠ 燃料の入れ過ぎに注意

燃料を入れ過ぎるとポンピングにより加圧するスペースがなくなり、液状のままのガソリンがバーナー部に放出され、不完全燃焼の原因になります。また、燃料が少な過ぎると炎が途切れたり、不安定な燃焼になります。

燃料満タンの目安

フューエルファネルを使った場合

① 燃料タンクを水平に置いて燃料を入れる。



② フューエルファネルから、タンク内に入らなくなったなら、注入をストップ。



③ ファネルを少し持ちあげると、ファネル内に残った燃料はタンク内に入り、ちょうど満タンの量になる。



ガソリンフィラーを使った場合

① 燃料タンクを水平に置き、ガソリンフィラーは正確に押し込み燃料を入れる。



② 缶から燃料が入らなくなったなら、注入をストップ。ちょうど満タンの量になる。

3 ポンピング

① 燃料バルブを右に止まるまでまわす。



② ポンプノブを、左に2回転させる。



⚠ 堅くて回らない場合はプライヤー等で左に回してください（特に新品購入時は堅い場合があります）。

③ 親指でポンプノブの穴を押さえ、人差し指と中指を添える。



④ 手前に引いて、奥まで押しこむ正確なストロークを繰り返す。



⚠ ポンピング中に引っかかり等を感じる場合はリユベリカントを注入してください。

⑤ 100～150回以上ポンピングし、固くなって指の力で入らなくなったなら、ノブを押しこんで右に止まるまでまわす。



ポンピング操作上の注意

⚠ ポンプカップの乾燥

ポンプカップが乾燥していると、ポンピングしてもひっかかる感じや軽すぎる感じで、空気が入らない。ポンプキャップの「OIL」と表示のある穴から、リユベリカントを2～3滴注入する。



リユベリカント
ポンプカップ専用
特殊オイル

⚠ 乾燥した状態で、無理にポンピングすると、ポンプカップがめくれるなど、破損の原因となる。



⚠ ポンピングは正確に

燃料タンクに垂直になるように正しくストロークする。力を入れ過ぎて、間違った方向に押すと、エアーステムを曲げるなど、の原因となる。



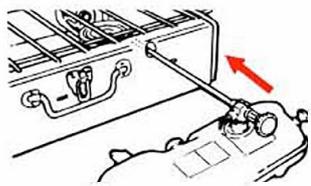
⚠ ポンピング時は、引き過ぎに注意

（特にイージーポンピングご使用の際は注意してください。）

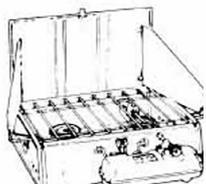
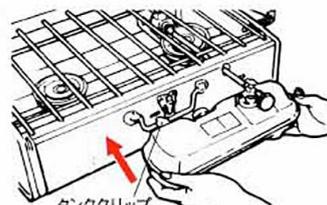
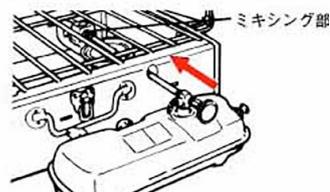
ポンピングをする際、手前に引く時は8分目位の所までとし、最後まで引っ張らないこと。引っ張り過ぎるとプッシュオンナットが外れ、ポンプブランチャーが外れる場合がある。外れた場合はP.15の組み立て方を参照してください。

4 燃料タンクのセット

- ①ジェネレーターの先端を、本体前部の穴に通す。
- ③タンククリップを本体前部の穴に入れてセット完了。



- ②ジェネレーター先端を、ミキシング部の穴に入れる。



△ ジェネレーターのスチール部分にさびが浮いている場合がありますが、特に使用上は問題ありません。

ワンポイントメンテナンス

チェックバルブ機能の点検

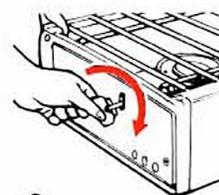
△ ポンピング操作直後に点検する
ポンプノブ先端の穴から燃料が吹きでる場合は、チェックバルブ機能不良。空気を抜いて修理に出す。



チェックバルブ交換は、専用工具が必要。お買い求めの販売店にご依頼ください。

5 メインバーナーの点火

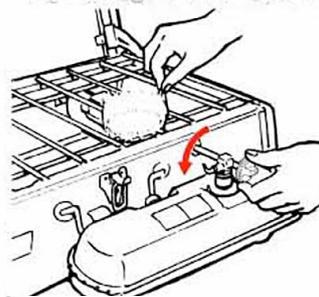
- ①サブバーナー燃料バルブを、右に止まるまでまわす。



- ②点火レバーを上向きにセットする。



- ③柄の長いライターなどの火をメインバーナーに近づけ、燃料バルブを左に1~2回転させると点火する。

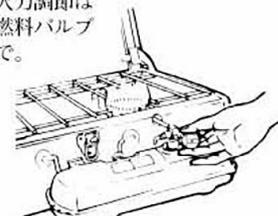


- ④点火直後、更に充分ポンピングする。

- ⑤点火直後の赤い炎から、安定した炎に変わったら、点火レバーを下向きにする。



- ⑥火力調節は燃料バルブで。



△ 点火時の注意 炎は上にあるので、点火するときは、ストーブの上にかがみこまない。



△ 必ず火を入れてから燃料つまみを開いてください。先に燃料つまみを開くと不完全燃焼の原因になります。

△ バーナー以外から炎が出る場合は、燃料の出すぎが燃料漏れが原因。燃料バルブを、右に止まるまでまわし、消火後、再度取扱説明書をよく読んで、正しい手順で点火操作を行う。

6 サバーナーの点火

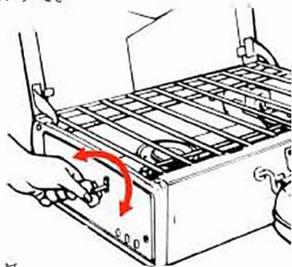
△ 単独使用はできないのでメインバーナーの火力安定後に点火。

- ① 柄の長いライターなどの火をサブバーナーに近づけ、サブバーナー燃料バルブを左に2回転以上回すと点火する。



- ② バーナーボウルが冷えていると、炎がとぎれることがあるが、熱を帯びると安定する。

- ③ 火力調節は、サブバーナー燃料バルブで。



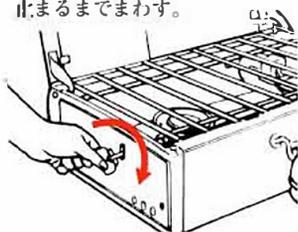
ワンポイントメンテナンス

△ 燃料バルブのつけ根(バルブステム一式)より、燃料が漏れる場合は、ナット部を増し締めしてください。それでも止まらない場合はバルブステム一式を交換してください。

△ ジェネレーター先端ミキシング部より炎が漏れる場合は、ジェネレーター先端のナットを増し締めしてください。それでも止まらない場合は、ジェネレーターを交換してください。

7 消火

- ① サブバーナー燃料バルブを、右に止まるまでまわす。



- ② 燃料バルブを、右に止まるまでまわす。



- ③ ジェネレーター内部に残っているガスがなくなるまで3~5分位燃えるが、しばらくすると消える。

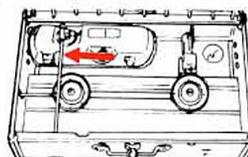
8 収納・保管

△ ストープ本体が完全に冷えてから行う。

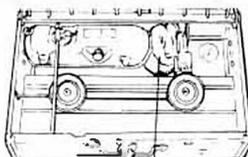
- ① 本体左奥に燃料タンクを入れ、ジェネレーター先端を本体の凹部を通し中に入れる。



- ② 燃料タンクを左に寄せ、ジェネレーターがサブバーナーの上にくるようにセットする。

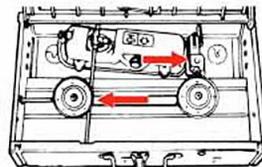


- ③ 燃料タンクとミキシング部の間にできる空間に、ぼろ布などの詰め物を入れて、燃料タンクが中で動かないようにする。



詰め物で固定する

- ④ 詰め物をしないで運搬すると、サブバーナーの下にジェネレーター先端が引っかかり、ジェネレーターを曲げたり、ミキシング部が変形することがある。



- ⑤ 本体を縦に収納する場合、サブバーナー燃料バルブが下にくるように置く。



- ⑥ 車のトランクなどで運ぶ時や、使用後に保管する場合、短期間であれば燃料を抜き取る必要はありませんが、空気圧は抜いてください。空気圧は燃料キャップを徐々に緩めると抜けます。

- ⑦ シーズンオフ等で長期間(半年以上)保管する場合は、燃料を完全に使いきって、タンク内を空にしてください。完全に燃料を抜く場合は別売りの「残ガス抜き取りポンプ」を使うと便利です。

- ⑧ 幼児、子供の手の届く所に保管しない。

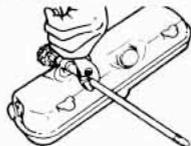
△ 器具を収納・保管・運搬する場合は、火気の近く、湿度が高い、高温な車内等温度が40度以上になる場所には収納・保管しないでください。

9メンテナンス

ジェネレーター交換の手順

△ 点火しにくい。完全燃焼しない。いつもより火力が弱い。ミキシング部から炎が出る。このような場合は、ジェネレーターを交換してください。

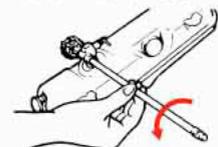
① プライヤーで、ジェネレーターチューブをはさむ。



② 左に1/4回転させる。



③ 手でまわしてゆるめる。



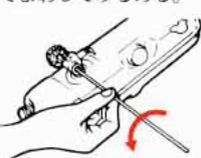
④ 抜きたる。



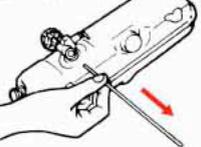
⑤ ニードルをプライヤーではさみ、左に1/4回転させる。



⑥ 手でまわしてゆるめる。



⑦ 抜きたる。



⑧ 7~1の手順で取り付けて交換完了。

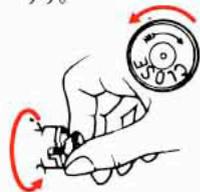
△ 交換後点火操作を行い、燃料漏れがないか確認する。

ジェネレーターは消耗品です。常時、予備のジェネレーターをご用意ください。

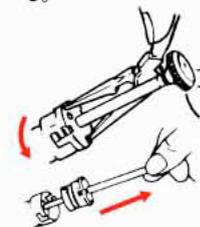
ポンプカップ交換の手順

△ ポンプカップが破損、損傷または外れたときは、ポンピングしても空気が入りません。ポンプカップを交換するか再度組立て直してください。

① ポンプノブを左に10回転以上回し、チェックバルブからエアーステムをはずす。



② ラジペンチなどで、ポンプキャップを外すと中にエアーステムを抜きとる。



③ ポンプカップを固定している、プッシュオンナットをはずし、損傷したポンプカップを取りのぞく。



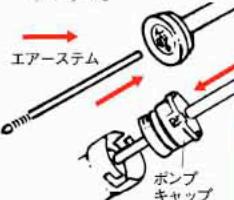
ポンプブランジャーの組立て方法

△ ポンプカップが外れてしまった場合は、ポンプキャップを外すと中にエアーステム、白いプラスチック板、ポンプカップ、プッシュオンナットがシリンダー内に残っているはずですので、それを取り出す。エアーステムは左に10回転以上回すと取れます。

ポンプキャップ、白いプラスチック板(向きに注意)、ポンプカップ、プッシュオンナットの順で組み立て、固定する。



④ ポンプカップにリユブリカント(専用特殊オイル)をつけ、エアーステムをポンプブランジャーの中に入れ、ポンプノブをセットする。



⑤ ポンプキャップを固定する。



⑥ ポンプノブを右に止まるまでまわして、交換完了。



△ ②の段階で、エアーステムに曲がりがないか確認し、変形していたら交換する。

△ エアーステムが曲がっていると、ポンピング操作が固くなり、チェックバルブ破損の原因になる。

常時、ポンプリペアキットの携行をお勧めします。